

資料

本郷・池袋・新大久保巡検報告

(お茶の水地理学会・明日香合同エクスカージョン)

2011年度のお茶の水地理学会(旧地理学科と現地理学コースの同窓会)の巡検テーマは、「東京の温故知新Ⅱ～文化開化からグローバル化まで」。

9月18・19日の2日間で、明治時代の文化が景観に色濃く残る文京区本郷、移民のビジネス展開の影響を受けて大きな変貌を遂げている池袋・新大久保を巡った。今回は、熊谷圭知先生が総合企画を担当され、本郷巡検の企画・案内で松山薫さん(41回生 東北公益文化大学)、池袋・新大久保巡検の引率に地理学コース3年在籍の高野萌さんと谷口博香さんのご協力をえた。正井泰夫先生と田宮兵衛先生、明日香(奈良女子大学旧地理学同窓会)会員のご参加をいただき、総勢50名を超える賑やかな巡検となった。

1日目はJR東京駅丸の内北口に午後1時に集合し、文京区本郷の東京大学に移動。目当ては本郷通りの向かいに広がる旧下宿屋街である。ここに数多くあった下宿屋は、建て替えられたり取り壊されたりして、現在ではほとんど残っていないが、この流れに逆らい存続してきた有名な下宿屋に、1905年建設の本郷館がある。大正時代には東



写真1 工事中の本郷館跡地

京女子師範学校の寄宿舎として使われ、お茶の水女子大学にも縁(ゆかり)が深い。この館の建て替え計画が2006年に明らかとなってから、館の消滅を惜しんで「本郷館を考える会」が結成され、保存のための署名活動や文化財指定を求める運動が行われた。松山さんはこの会の中心メンバーの1人である。私たちが見学した時には本郷館の建物は既になく、敷地は工事現場用の柵で囲われていた(写真1)。当地区には旅館も多く、その一つである鳳明館森川別館をこの日の宿泊・懇親会のために手配していただいた。

次に見学したのは求道会館である。この館は、浄土真宗僧侶の近角常観の依頼により京都大学建築学科創始者の武田五一の設計で、1915年に建てられた。仏教の施設ではあるが、西洋建築のデザインが採り入れられ、外装・内装とも一見キリスト教の聖堂のようである。ここでは創建者のお孫さんにあたる近角真一さんが館のデザインや歴史、現在の施設の利用について解説して下さった。今でこそ東京都の有形文化財の指定を受け、近代建築としての歴史的文化的価値が認識されているが、一時期は放置され荒れていたようだ。

求道会館の見学後、宿泊先の鳳明館森川別館で懇親会が行われた。宴会場では、奈良女子大・お茶の水女子大卒業生が交互に座り、1人ずつ自己紹介した後、歓談と食事を楽しんだ。松山さんと熊谷先生からは、スライドでそれぞれ「本郷館を考える会」の活動とパプアニューギニアでの活動を紹介していただいた。交歓の締めくくりには、今や恒例となった校歌の合唱を互いに披露した。

2日目(9月19日)は、「グローバル都市東京のエスニックタウン」の代表ともいえる池袋と新

大久保の見学である。午前10時に池袋北口に集合し、熊谷先生と地理学コースの高谷さん・谷口さんの引率により、3つのグループに分かれて順次出発した。

池袋北口に近い西池袋1丁目のみずき通りから池袋1丁目の平和通りにかけての一带には、中国人が経営する飲食店や食材店など様々なビジネスが集積し、現在「池袋チャイナタウン」とよばれている。私たちは、池袋チャイナタウンを象徴する店舗として頻りにメディアに登場する陽光城の外観を見学し、次に、その近くにある友誼商店に入った。ここでは、店長代理の方から店の経営などについてお話を伺うことになっていた。説明が始まるまで、参加者は店内に豊富に取り揃えられた中国食品を見学し、気に入った食材や調味料などを購入していた。店側の説明によれば、主な顧客は日本在住の中国人で、インターネットでの買い物・配送も受け付けているとのことであった。昼食には、逸品火鍋という中華料理店で参加者全員がランチコースをとった。店員が大勢の注文に応じきれない場面もあったが、各テーブルで話はずみ、参加者同士の交流も深まったようである。その後JR山手線で新大久保に移動した。

新大久保では、「マルチエスニックエリア」と呼ぶにふさわしい多様な文化を反映したビジネスが展開している。しかし韓流ブームの中で多くの韓国関連の店が進出し、今や韓流ファンの女性が集うコリアタウンとして知られるようになった。

コリアタウンの本格的な探索に入る前に、皆中稲荷神社に立ち寄った。この神社は、江戸時代に百人町の名前の由来となる鉄砲組百人隊が置かれていた地域にある。鉄砲組の人々の篤い信仰を集め、境内には彼らが奉納した鳥居や手水舎、灯籠が今も残る。この日は、2年に一度行われる鉄砲組百人隊行例行事の一環として、神社内では鉄砲隊の衣装を身に着けた男性たちによる一斉射撃が行われていた。

コリアタウンの見学は、大久保1丁目を中心に



写真2 賑わうコリアタウンの路地

行われた。この地区には、韓国の飲食店や食材店、韓流スターやK-POPアーティストのグッズの店、化粧品店が集積している。こうした店は、本地区を囲む大久保通りと明治通り、職安通り沿いに多いが、内部の路地にも多数の店が軒を連ねている。特にディスカウントショップ「ドン・キホーテ」に面した小道は、竹下通りを彷彿とさせる賑わいぶりである（写真2）。事前に読んだガイドブックには、若く外見の整った韓国男性を店員として揃えた「イケメンカフェ」が何軒も登場しているという情報もあった。巡検の最後には、小泉八雲記念公園に集合し、楽しかった2日間の名残を惜しみつつ解散となった。

振り返ってみると、今年度もまた充実した内容の巡検を実施していただいた。場所の歴史性や他地域とのつながりについて学び、同窓生との絆を深められるこのような巡検は、多くの方々のご尽力がなくては実現できるものではない。企画・案内をして下さった熊谷先生と松山さん、下調べをして丁寧な解説とともに引率して下さった地理学コースの高野さんと谷口さん、そして配布資料の準備や参加者のとりまとめをして下さったお茶の水地理学会事務局の須野原さんをはじめ、ご協力して下さった皆様に心よりお礼申し上げます。

（文責：吉田道代）